



情報通

2009. May 5月号

発行日：平成21年5月1日

発行：東京税理士会
情報システム委員会

題字：金井塚 清 (豊島)

そろそろIT活用してみませんか？

J-SaaSのサービス開始に伴い、ネットワークを利用した様々な業務向けソフトウェアが登場しています。関与先の情報を集め、分析判断し、しかるべきアドバイスや申告書類等を提供する税理士事務所では、これらのネットワーク技術を利用した新たな業務にもぜひ関心をもっていただきたいものです。

税理士の職業病？

税理士は、関与先のあらゆる経済取引について情報を収集し、的確なアドバイスをしながら適正なる申告書類等を作成提供しています。関与先での社長との何気ない雑談の中でも、ついつい税務とからめた視点で話をしていることありませんか？

ある意味職業病かもしれませんが、税理士は、実態に即し適正な業務処理を行うため、情報収集、分類、管理、分析、集計、出力そして保管という作業を日常的におこなっているのです。

昔は、事務所での朝礼もそこそこに、筆記具とソロバンをもって関与先へ訪問し、さまざまな帳票書類の確認と記帳補助ならびに帳簿メ切、総勘定元帳転記、試算表での集計を行っておりました。さらなる処理効率アップのため、多桁式の帳簿を導入したり、複写式伝票を導入したりと様々な工夫がされていたと聞いています。つまり、いかに早く、正確に、しかも労働コストがかからないようにあらゆる手段を講じてきたといえます。

税理士がほしいのは、関与先で行われた（あるいはこれから行われる）取引の情報であって、その情報を的確に判断し、最適な処理方法を行うことなのです。しかも素早く低コストならいうことはありません。

IT（電子化）を活用するのは？

「うまい、やすい、はやい」どこかで聞いたフレーズですが、このバランスは非常に難しいものです。いくら業務が懇切丁寧であってもコスト高で処理が遅ければ関与先からクレームが来てしまいます。逆に低コストや処理が早くても、内容がずさんでは仕方ありません。この壁を越える一つの手段としてITの活用が効果があるのです。

筆記具とソロバンで商売をしていた時代から、コンピュータを日常業務に取り入れたことを考えてみてください。とりあえず、入力さえしてしまえば、あとの修正や、転記、分析、そして必要な書類が瞬時に出力されるようになりました。当初は、コスト高であったかもしれませんが、圧倒的な処理速度の向上と詳細な分析資料の提供が可能となりました。低価格パソコンや格安ソフトウェアの登場でトータルコストもさがっているはず。もし、実感されていないのであれば、今すぐ、事務所のコンピュータを使わずに、筆記具とソロバン（電卓）だけで業務をやってみればわかるとおもいます。

コンピュータは、決められた手順にしたがって様々な条件のもと処理をおこなうことは得意です。多少熱はもちますが、疲れ知らずで長時間の作業もこなせます。

つまり、業務をなるべく決められた手順に当てはめ、コンピュータに任せれば、すぐに効果があらわれます。

ただし、いくつかの点で注意しなければなりません。

それは、下記の通りです。

- ①そもそも手順がないものはIT化できない
→まずは手順をつくり定着させること
- ②一部の部分が効率化されても全体は効率的でない
→全体からどの部分を強化するかきめておく
- ③トラブル発生は覚悟し、対処しておくこと
→対応マニュアルを準備する

IT（ネットワーク化）でさらなる飛躍

いままで業務処理の電子化（OA：オフィスオートメーション）でのお話でした。実は、ネットワークを活用するとさらにITの効果は倍増するのです。

冒頭申し上げたとおり、我々の業務では、関与先での情報収集、そして所内での情報処理保管、最後に関与先での情報提供が大きな流れです。これらの手順の電子化では、従前の関与先へ訪問し処理をしているのとなんら変わりありません。もちろん、今では実際に足をはこばなくとも、電子メール、FAX等を利用すれば情報は入手できます。しかしながらどうしてもタイムラグ（時間的ズレ）が生じてしまいます。では、関与先で処理をしているデータを、事務所でも共有して利用してはどうでしょうか。関与先担当者が入力しても、税理士や会計事務所担当者が入力しても瞬時に反映したらどうでしょうか。

また、販売管理や在庫管理にソフトウェアを導入しているが、入金支払管理の財務ソフトウェアとの連動がされておらず、二度手間になっているような場合があります。それでは、所内でそれぞれのソフトウェアのデータを事務所でも相互で活用できるようにしてはどうでしょうか。

今話題のJ-SaaSでは、こうした運用ができるソフトウェア群を紹介しています。

IT（BPR）で最後の飛躍を

BPR (Business Process Reengineering)とは、本来の業務手順そのものを、たとえばITを最適化した次元で考え直し再構築することです。

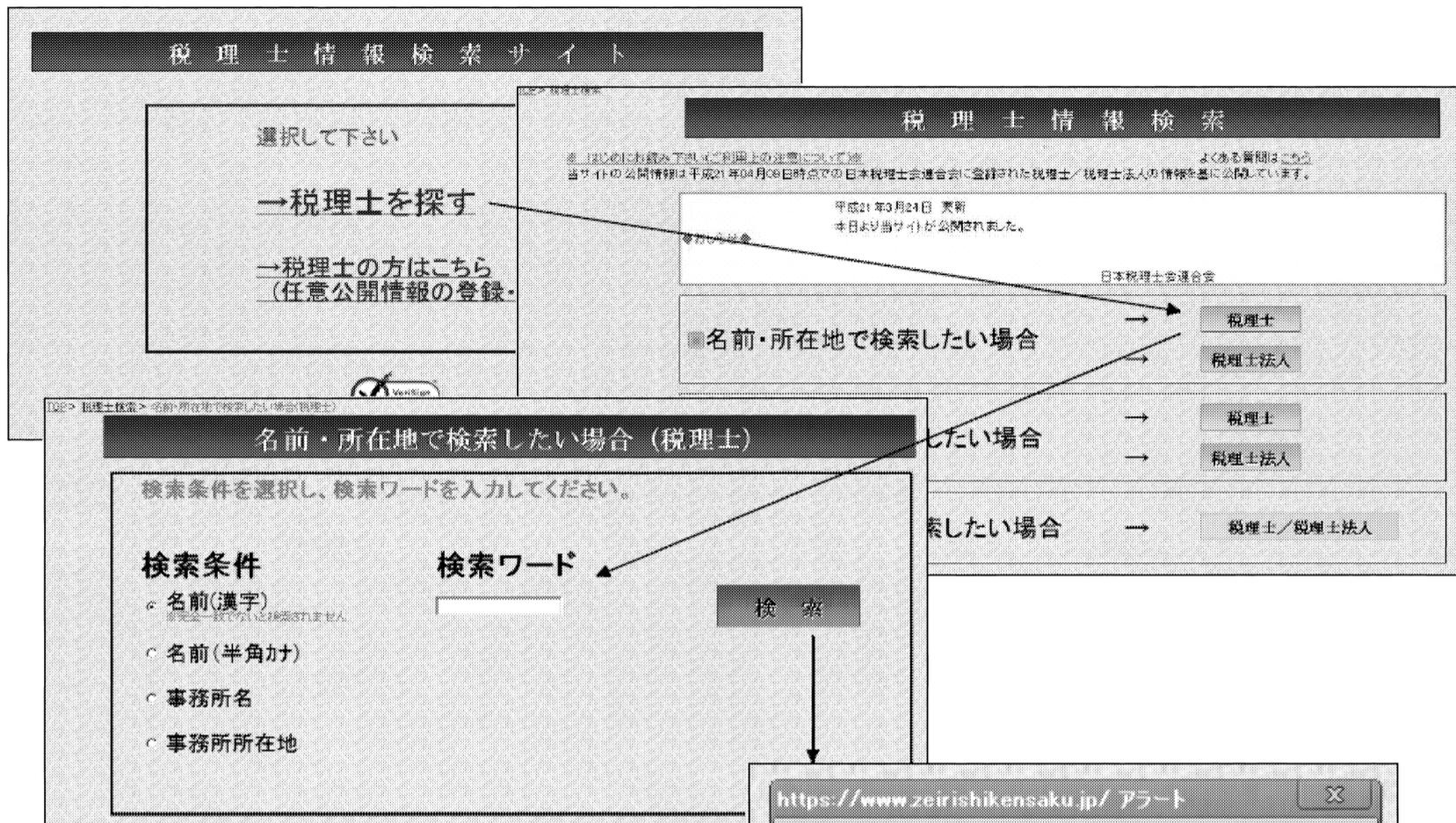
もし、現在の業務手順が、筆記具とソロバン時代からなら変わっていないとすれば、業務全体をまっさらな気持ちで見つめ直し無駄がないか確認が必要です。電子申告を業務に取り入れられた会員の皆さん方も、単に申告業務が電子に変わっただけでなく、事務所内での作業手順を変えることで、スムーズ業務が流れ、楽になったとの声が聞かれます。

ITを活用するには、いままでの手順を見つめなおさなければうまくいかない場合のほうが多いということなのです。

ご存知ですか？税理士情報検索サイト

平成21年3月24日より「税理士情報検索サイト (https://www.zeirishikensaku.jp/)」が稼動しています。このサイトでは、全国の税理士を様々な条件で確認することができるだけでなく、税理士ICカードを利用して、自身の「任意公開情報」を登録・変更することができます。

本来このサイトは、一般納税者向けに税理士情報を提供することを目的としています。



■検索での注意

税理士検索にあたり、名前(漢字)や所在地を利用する際、異体字に注意が必要です。日本税理士会連合会の税理士名簿に記載されている表記でなければ表示がされません。

もし、検索がうまく出てこない場合には、名前(半角カナ)も併せて利用することをお勧めします。

また、検索結果が1000件を超えてしまうと表示ができませんので注意が必要です。

■検索結果はコピーできないので注意

検索結果は一覧表示がされ、詳細ボタンで個別の情報カードが表示されます。様々な事情により、この画面上でのテキスト選択はできないようになっています。したがって、必要事項は印刷あるいは、メモをとるしかありません。

■他単位会の税理士会員確認は便利

今まで、他単位会の会員の税理士情報を入手するには手間がかかりました。業務上、他単位会税理士からの様々な案件紹介等がある場合等、お互いを税理士情報サイトで確認をすることができるようになりました。

■今後の利用での希望!

やはり、検索時の氏名、地名等の固有名詞が名簿掲載時の記述である点は非常に残念におもいます。検索キーワードについては、多少の幅でも検索がされると使い勝手は上がると思います。

ぜひとも、ご自身の名前を確認いただき、任意項目について(税理士ICカードが必要)も登録されてみてはいかがでしょうか。

The screenshot shows the '税理士検索結果一覧' (Tax Accountant Search Results List) page. It displays a table with columns for '登録番号' (Registration Number), '氏名' (Name), 'カナ' (Kana), '事務所名称' (Office Name), '事務所所在地' (Office Location), and '詳細' (Details). The table lists several tax accountants with their respective information. At the bottom right, there is a button for '詳細' (Details) for each entry.

The screenshot shows the '税理士詳細情報' (Tax Accountant Detailed Information) page. It displays a form with various fields for a specific tax accountant, including '登録番号' (Registration Number), '氏名(漢字)' (Name in Kanji), '氏名(カナ)' (Name in Kana), '登録年月日' (Registration Date), '事務所名称' (Office Name), '事務所所在地' (Office Location), '事務所電話番号' (Office Phone Number), '所属会' (Association), '任意公開情報' (Optional Public Information), '住所' (Address), 'Eメール' (Email), '事務所FAX' (Office FAX), '事務所メールアドレス' (Office Email Address), and '事務所ホームページアドレス' (Office Home Page Address).